

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

①八甲田山分園を活用した教育活動[植物園]

・植物園の八甲田山分園は、八甲田山の山麓に位置し、80年の歴史をもつ高山地域の生態学研究・教育の拠点であり、現在教員1名により管理運営されている。八甲田山分園では、学内外からの学生実習の受け入れと支援を行っているが、高山地域に位置する同種の施設は、全国的にも数カ所しか存在していない。2010年度には、学内から4つの実習、学外の3大学（横浜国立大学、立正大学、東京情報大学）から3つの実習、および青森県中・高等学校理科野外講座を受け入れ、生物学、生態学の教育に貢献した。また同施設は、生命科学研究科グローバルCOE「環境激変への生態系適応に向けた教育研究」の重要な教育・研究拠点としても活用され、大学院生、研究者が滞在して研究を行っている。

(2) 特筆すべき研究・診療活動の取組と成果

①IODP（深海掘削計画）Micropaleontological Reference Center への活動協力[総合学術博物館]

・宇都宮大学と協力し、世界各国のMRC機関に配布する放射虫スライドの作成協力を行い、国際的なデータベース作成に貢献した。

・8月4日～6日に微化石サマースクールを名古屋大学理学部とともに共催し、若手研究者に微化石鑑定技術を教授した。本サマースクールは、IODP深海掘削計画の推進組織であるJ-DESKからも要請・後援を受けている。全国から、9機関の18人が参加した。

・2011年3月3日から5日の期間に、若手微化石研究者の成果報告の場として、MRC研究集会を開催した。本年度は35人の口頭発表と8件のポスター発表した。

②「e-Specimen」（3次元デジタル標本データベース）の開発整備[総合学術博物館]

博物館では、新しいインターネット公開技術である「e-Specimen」（3次元デジタル標本データベース）システムのシステム構築及び標本作成作業を行っている。生物・古生物標本には、殻形態等の3次元データや内部構造データなどが種の同定のため必要なものが多い。このような標本のデータベースは、2次元画像のみでは不十分であるが、実用的な3次元デジタル標本データベースはほとんど例がない。総合学術博物館ではマイクロCTによるデジタル標本システムを開発することで、この問題の解決を目指しており、現在有孔虫を題材として、その有効性を検証するための公開実験を行っている。今年度も難解とされる前期旧石器時代の石器の考古学資料を新たに取り上げ、この方法で展示公開している。

③大学博物館等協議会・博物学会の主催(6/24、25)

大学博物館等協議会2010年度大会・第5回博物学会を本学主催で、東北大学青葉山キャンパス青葉記念会館を会場として開催。25館、100名以上の参加を得た。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

①「植物園の日」のイベント開催[植物園]

植物園では、5月4日みどりの日が「植物園の日」であることから、植物園主催、仙台植樹の会共催、日本植物園協会後援で「5月4日は植物園の日、ふるさとの植物を守ろう」というイベントを行った。当日は植物園ガイドツアー、ミニコンサートが行われ、市民が植物園の豊かな自然を楽しんだ。入園者は1666名で、植物園の公開促進、地域教育・文化への貢献、地域住民と一体感のある大学づくりへの貢献につながった。

②「魯迅記念展示室」の整備[史料館]

史料館と総務部広報課の連携により、本学の所蔵資料の国際的な情報発信およびそれに伴う知名向上戦略の一環として、2010年度より「魯迅記念展示室」の整備を行い、2011年7月より一般公開を開始した。

③土曜・日曜開館の実施[史料館]

・史料館では、前年度に引き続き、利用者の要望に応えるため、企画展が開催された9、10月の2ヶ月間にわたって土・日・祝日開館を試行した。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

①仙台市博物館連携ネットワークSMMAへの参画[総合学術博物館]

共通ホームページの協力、ブックキャラバン、スタンプピクニック、クロス展示、クロストークへ参加した。クロス展示では「切込焼きー東北大学の発掘資料」で参画した。クロストークでは、6月13日(日)午後13時30分に、せんだいメディアテーク7階スタジオbで、『ー東北大学総合学術博物館×東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館ー「宮城のやきものと芹沢長介」』に出演した。入場者約50名。

②ガイドツアー「植物園の四季を訪ねて」[植物園]

・植物園では、NHK文化センターと共同し、ガイドツアー「植物園の四季をたずねて」を年間4回(4/21, 7/7, 10/6, 1/26)開催し、青葉山の貴重な自然を地域の方々に紹介した。このうち1/26は、休園期間内であるため、積雪による安全面などを配慮しつつ行ったが普段見ることができない青葉山の姿を観察する機会を提供した新しい取り組みとして特に好評であった。

③環境省のモニタリングサイト1000事業に協力[植物園]

・環境省のモニタリングサイト1000事業に協力し、東北地方の低地に特有の森林である青葉山のモミ林のモニタリングを継続している。この結果は、地球環境の変化が生態系にもたらす影響を早期に検出し、必要な対策をとるための基礎情報として貴重である。

④絶滅危惧植物生育外保全に協力[植物園]

・環境省の絶滅危惧植物生育外保全事業に協力し、絶滅危惧種の種子採集・保存事業を青森県および宮城県において実施した。これらの種子は、保存または各地の植物園において生育外保全として栽培され、また当園も本事業によって収集された種子を受け入れ、保全を行っている。

⑤附属図書館と連携した学術資源の調査等

・附属図書館協力研究員を兼ねているセンター教員を中心に、漱石文庫および貴重図書の保存修復のための作業、オイレンブルク関係資料等の解説紹介を通じた日独交流150周年記念事業への協力、ラファエル・フォン・ケーベル文庫の書誌目録作成など、図書館が所蔵する貴重資料等の保全・調査等を進めた。